

日本洋書協会会報

BULLETIN OF JAPAN ASSOCIATION
OF INTERNATIONAL PUBLICATIONS

目次

- 東京国際ブックフェア20041
- 理事会報告・会員の動き2
- 委員会報告〔広報委員会セミナー〕3

東京国際ブックフェア2004

東京国際ブックフェア2004は去る4月22日（木）～25日（日）の4日間、東京ビッグサイトで開催されました。

リードエグジビション社・ブックフェア事務局の発表によると、出展社関係者も含めて総入場者数は55,027人で、昨年比微増ながら過去最高となった由です。また出展社は587社（国内470社、海外117社／29ヶ国・地域）で昨年比5%増でした。海外出展社は版權交渉がビジネスの主体で、中国、韓国をはじめとするアジア諸国が中心だったようです。

版權売買などのトレード、期間限定バーゲンセールの読者謝恩に加えて、2001年に始まった出版社と書店の直接取引を促進する書店市会と、当ブックフェアを支える三本柱が揃ったことになりませんが、会場全体を見回した大雑把な印象では各出版社ブースでのバーゲンセールが花盛り、といった感がありました。市井の読者から見れば、日ごろ街の書店ではなかなか目にすることのない本が見つかることもあり、ものによっては5割引で買えるとあっては大きな魅力でしょう。年に一度の一大イベントを待ち焦がれている読者が増えていることは確かです。三本柱の内、“読者謝恩”は一回りも二回りも太くなって来たようです。

さて、当協会主催の「洋書バーゲンセール」、今年も年明けから事務局への問い合わせが引きもきらずで、関心の高さを窺わせました。問い合わせの内容は探しているタイトルやジャンルの有無から割引率の程度など、即答しかねるものも多く、ご不満だったかも知れませんが、「会場へお出でになってのお楽しみ…」と来場を勧めておきました。和書の場合以上に日ごろ書店で手に取る機会が少なく、それだけに期待される

度合いは大きいと思われます。恐らくセールの現場では質問や要望が多く寄せられたことと思います。それらを次回以降の出品に活かすことが出来れば、セールの内容を一層充実したものに出来るのではないのでしょうか。

今年の成果は過去最高を記録した昨年に比べて1%増の1,509万円で、また記録を塗り替えました。集計したスリップ枚数は4日間で23,000枚余り、1冊のお買い上げにつき代金の授受、領収書の発行、袋詰めに必要な時間が平均約5秒！ちょっと信じられない数字ですが、現場を担当してくださった各社の皆さんの奮闘に改めて敬意を表します。本当にご苦労様でした。

閑話休題、長野県知事・田中康夫さんの基調講演「環境をなげくのではなく、あなたが読者に何ができるかを考えよう！」を聴きました。自らの書きでもある田中さんからは、低迷する出版・書店業界に一喝がはいっているのか、と期待一杯でしたが、県政・国政に対する徹底批判に終始、些か期待はずれでした。その批判から何がしかのものを汲み取らなければいけないかったのでしょうか…。

2005年の東京国際ブックフェアは会期を変えて7月6日（水）～9日（土）に文具フェアと（恐らく向かい合わせで）併催になるようです。「本」と「文具」のお客様はどうも共通のような気がしますので相乗効果は期待できそうですが、日曜日が外れることで集客に影響するのではとの懸念があります。ともあれ、新しい試みに挑戦してさらなる飛躍のキッカケとなって欲しいものです。

（事務局 高橋記）

理事会報告

4月19日(月)

1. 以下の委員会報告を了承した。
 - (1)広報委員会：4月5日開催のセミナー「インターネット時代のライブラリーと雑誌取次店の役割」には会員社より44名、非会員社より10名の参加者があった。
 - (2)ホームページ・ダイレクトリー委員会：ダイレクトリー2004は予定通り総会前に刊行できる見込である。
2. 以下の正会員2社の3月末日付け退会届を受理した。
 - (1)オーヴィス㈱
 - (2)㈱テクニコン・ドキュメンツ・サービス
3. 総会議案審議
 - (1)2003年度決算報告書を承認した。
 - (2)前期繰越金及び人件費を修正した2004年度予算案を承認した。
4. 2004年度の課題
協会が当面する問題、将来へ向けての協会の在り方、活性化の方策などについて、定例理事会とは別に論議の場を設けることが提案された。次回理事会にて実施に向けて検討する。
5. その他
 - (1)会員・非会員の交流の場拡大の一環として、総会後の懇親会に非会員の参加を呼びかける。
 - (2)理事会議事録作成のルールを明確にする。

お知らせ

経費節減の一環として、会報製作費の削減を図ることとし、本年度より4ページ建てと6ページ建てで交互に発行することになりました。

今後更に記事を精選し、内容をより充実させて参る所存ですので、引き続きご愛読くださいますようお願い申し上げます。

会報委員会

会員の動き

代表者交代

会員名：エルゼビア・ジャパン株式会社
HS部門担当
代表取締役
新 任：スティーヴン・トロース氏
退 任：大西 進氏
異動日：2004年4月

事務所移転・代表者交代

会員名：アメリカ大学出版局グループ
極東代表
新 任：ジル・フォーヴォ氏
退 任：石神 幸宏・敦子氏
新住所：〒230-0051
神奈川県横浜市鶴見区鶴見中央
5-11-12-802

Tel & Fax：045-511-3282
異動日：2004年1月

.....
会員名：株式会社 アイ・ロジスティクス
代表取締役社長
新 任：武井 真哉氏
退 任：五島 康男氏
新住所：〒107-0052
東京都港区赤坂 3-3-3
住友生命赤坂ビル 5／6F
Tel：03-6230-0920 Fax：03-6230-0945
業務開始日：2004年5月6日

退 会

残念ながら下記の正会員2社が退会されました。

会社名：オーヴィス株式会社（1975年入会）
株式会社 テクニコン・ドキュメンツ・サービス
（1971年入会）
退会日：2004年3月31日

『仲介業者：インターネット時代に求められる新たな役割と能力』 (Intermediaries: New Roles, New Skills for the Internet Age)

2004年4月5日（水）
国際文化会館
講師：Rollo Turner 氏

<ASA: Association of Subscription Agents and Intermediariesとは?>

ASAは各国の購読取次・代理店業者からなる国際機関である。1987年に英国で13機関から始まり、現在は世界に44機関、今後もさらに増えつづけていく予定。機関規模は5段階に区分され、よりよいサービスの実現を目的とし、広報活動やガイドライン作り、支払規定、さらにはCOUNTERやICEDIS、ISSNなどの基準コードにも携わっている。

学術ジャーナルの75%がオンラインでも購読できるようになり、2008年（2007年?）には全体の6割が、2014年には9割を超えるジャーナルがオンラインのみの購読になるとも予測されている。従来の代理店経由の単純な流通購買システムだけでは成り立たなくなっており、コンソーシアムやアグリゲーター、直取引などが出現。それに伴い価格体系や購読条件なども複雑になり、アクセス方法も多岐にわたっている。

顧客（図書館）が図書予算削減により経費削減を強いられる中で、出版社は新たな利益享受を求めるようになった。新たな購読形態が生まれる中で、価格体系を細分化し、客層を厚くし、それまでかかっていた仲介業者費用を削減し、利益を増やそうと試みたのである。しかし、顧客ごとに対応するサービス（支払処理、クレーム対応、テクニカルサポート等）は非常に手間ひまのかかるものであり、割高なコストを生むことがあるということを出版社は十分に認識していなかった。

また市場の全体像を掴んでおくことも重要である。学術ジャーナルの市場では大手出版社5社が全体の33%のタイトルを扱っているため大口取引によるディスカウント等が可能だが、残りの6割以上はそうはい

かないのである。

個別に掛かる経費や各国別の通貨払い等に加え、オンラインジャーナルの場合はその管理運営にさらにコストが掛かる。その管理運営の部分にこそ、仲介業者の未来がかかっており、経費削減と付加価値を掲げて参入していくことが肝要である。予算は減る一方でオンラインでの購読の割合が増えるという状況では、内輪仕事のコスト（見えざるコスト）は増すばかりで、結果的には外注した方が割安になるのである。

一方、ジャーナルの価格上昇そのものは顕著であり、それに対する挑戦として2つの施策、"Open Access (OA)"と利用度に基づく価格体系の"COUNTER"が実施されている。OAは論文投稿者が経費を負担し、閲覧は無料とするものである。利用度に基づく価格体系は、様々な出版社ごとの利用統計に基づくという特性から予算管理がしづらいという難題を抱えているが、COUNTERは利用統計基準（標準）を定め、各出版社による算定基準を統一するため、問題は解決に向かっている。ここにも仲介業者が新たに提供するサービスがうまれる可能性が大いにある。

仲介業者はこれまでのサービス内容に加えて、オンライン購読に伴うきめ細やかな新規サービスを提供することで、図書館（顧客）にとっても、出版社にとっても、"経費削減、付加価値提供"を実現する存在として必要とされるようになり得る。大手には大手の、中小には中小の仕事の展開方法があり、電子媒体界のニッチ市場において小回りがきくということは大きな武器となる。

商品知識を伴った提案力、営業販売力、オンライン化に伴う技術力、これまで以上のサポート力、管理運営能力が、仲介業者の新たな役割・能力として求められる時代になってきているのである。

<<この抄録はRoll Turner氏の講演原稿をもとに、ユサコ(岡)佐野嘉彦氏が執筆されたものです。
協会ウェブサイト／掲示板より転載しました>>

論文執筆のための研究支援ソフト

EndNote® New v7

EndNoteは、論文執筆のための研究支援に特化したデータベース・ソフトで、研究者にとっては非常に強力なツールとして世界中で利用されています。

EndNoteを利用することによって、インターネットによる文献検索のデータを取り込んでデータベースを作成、そこから論文原稿に引用文献を埋め込むと、自動的に文中引用文献と巻末の参考文献リストが作成されます。また、取り込んだ文献データは、自由にあとから編集することもできます。

特に著名な学術雑誌の投稿スタイルであれば、搭載されているスタイル名を選択するだけで引用文献と参考文献リストが得られるので、研究とは直接関係ない論文作成のための時間と労力を節約することができます。

さらにリンク機能を使用すると、収録させているデータと、例えば研究業績レポートやフル・テキストで作成されたPDFファイルを、外部URLや自分の端末(またはNetwork)上のファイルへリンク付けし、管理することもできる大変有用なツールです。

【主な特徴】

- 海外学術文献検索結果の自動取り込み(例、PubMed他)
- ダウンロード・レコードの管理
- 引用文献と参考文献リストの自動作成
- 論文投稿スタイルは、1,000種類以上に対応
- 収録レコード内のスペルチェック(英米別々の医学用語や欧米各国語対応16種)
- 収録レコード内の項目から、外部URLまたは指定先ファイルへのリンク付け
- 収録データからの件名見出し語検索(ランキング表示可能)他
- EndNote 7 日本語訳マニュアル収録CD-ROMを無償提供(要、弊社宛ユーザー登録)

【その他】

Windows版とMacintosh版があり、各¥52,290(送料と税込み)です。旧VersionからのUpgrade価格=¥20,790(いずれのversionからでも可能)です。
EndNote7 デモ用Windows/Macintosh対応(CD-ROM版=無償提供)も用意しています。
EndNote 7 は、旧バージョン同様日本語の取り込みは対応していません。

※お問合せは、弊社マーケティングセンターまで。

— ■日本総代理店

ユサコ株式会社

マーケティングセンター

〒106-0044 東京都港区東麻布2丁目17番12号 Tel. 03-3505-3256 Fax. 03-3505-6282

ホームページ <http://www.usaco.co.jp/> E-mail: en-order@usaco.co.jp

THOMSON
ISI RESEARCHSOFT

EndNote®/ISI ResearchSoft a Thomson companyの登録商標です